Quarterly Journal of Seismology

Vol. 44

験震時報

第 44 巻

昭和55年

気　象　庁

Published by the Japan Meteorological Agency
Tokyo

1980

第44巻 総 目 次

第1〜2号

長宗 留男：$M7$ クラスの地震と地体構造…… 1
涌井仙一郎：松代における P 波の走時残差…… 7
吉田 弘・勝又 護：強震動の継続時間…… 13
望月 英志・細居 善一：電卓による現業用震源決定…… 19
渡部 貢：むつ湾地震（1976年11月）前後における地震波速度変化について… 27
地震観測所：ASRO 地震観測システムについて …… 31

第3〜4号

森 滋男：秩父地方での表面波の減衰について…… 41
佐藤 久：土佐清水および串本で観測された遠地津波の振動特性について…… 47
市川 政治：地震記録自動処理装置…… 55
市川 政治・藤沢 格・吉田 弘：震源計算装置と処理結果…… 75
佐々木利夫：吾妻山・安達太良山・磐梯山付近に発生した
火山性地震の震源推定について…… 87

Vol. 44 Contents

Nos. 1〜2

T. Nagmune: Tectonic Structures Defined from Earthquakes of Magnitude about 7 …… 1
S. Wakui: P Travel Time Residuals at Matsushiro Seismological Observatory …… 7
H. Yoshida and M. Katsumata: On the Duration of Strong Shaking of Destructive Earthquakes…… 13
E. Mochizuki and Y. Hosoi: Rapid Determination of Earthquake Parametsrs Using a Table Calculator…… 19
S. Watanade: Variation in V_P/V_S Related to the Mutsu-Bay Earthquake of 1976 …… 27
Seigmological Observatory, JMA: On the Abbreviated Seismic Research Observatory …… 31

Nos. 3〜4

S. Mori: A Study on Attenuation of Rayleigh Waves in the Chichibu Region, Central Japan …… 41
H. Satoo: On the Oscillation Characteristic of Distant Tsunami Observed at Tosa-Shimizu and Kushimoto, Western Japan…… 47
M. Ichikawa: Automatic Processing System of Seismograms in Japan Meteorological Agency…… 55

M. Ichikawa, I. Fujisawa and H. Yoshida: System for Earthquake Parameter Rapid Determination and Some Results Obtained 75
T. Sasaki: Determination of Hypocenters of Volcanic Earthquakes Occurring near Mts. Azuma, Adatra and Bandai 87

験震時報投稿規定および投稿の手引き

験震時報は全国気象官署の職員が行なった気象庁の地象業務に関連する分野の研究・調査を掲載し，原則として年4回刊行する．内容は論文・報文および雑報である．論文は新しい知見を含むもの．報文は論文と比較して調査・資料的傾向のあるもの．雑報には寄書・短報・速報・討論・著作目録・正誤表を含む．

原稿は投稿規定と投稿の手引きに従って作成する．不備な原稿，次の**投稿規定**に沿わぬ原稿は返却することがある．

1. 他誌に掲載したものをそのまま再投稿してはいけない．また，他誌に掲載したものの続編形式にはしない．
2. 原稿の本文は和文とする．和文は原稿用紙に読みやすく書く．アブストラクト等の英文はなるべくタイプライターを使う．
3. 表題は和文で書く．
4. 著者名は疎字とローマで略さずに書く．所属官署名は和文で書く．
5. 論文には英文アブストラクトを付ける．英文アブストラクトは別紙に書く．
6. 図はトレーシングペーパーに墨や製図用インクではっきりと描く．また，赤・黄等の紙や方眼紙，リコピーの用紙およびボールペン・サインペン等を使わない．
7. 図表の表題・説明は論文の場合原則として英文で，その他の場合和文で書く．図の表題・説明は別紙にまとめて書く．
8. 本文の末尾における参考文献は，原則として次の形式に従って列記する：

雑誌――著者名（年）：表題，雑誌名，巻数，号数(省略してもよい)，ページ～ページ．

単行本――著者名（年）：書名，第何版，発行所，総ページ pp. 数．または引用ページ．

（例）

久野　久（1958）：大島火山の地質と岩石，火山，第2集，3，大島特別号，1～16.

Gutenberg, B. and C. F. Richter (1942): Earthquake Magnitude, Intensity, Energy and Acceleration, Bull. Seism, Soc. Amer., 32, 163～191.

竹内　均（1966）：地球物理学（坪井忠二編），第1報，岩波書店，67～71.

Jeffreys, H. (1959) : The Earth, 4th ed., Cambrideg Univ. Press, 108～113.

9. 著者には別刷50部を無料で送付する．
10. 原稿送付先は気象庁地震課

原稿を作成するときは，次の**投稿の手引き**の各項の趣旨に沿うこと．また，原稿提出前には以下の各項に沿って必ず原稿を点検する．

1. 本　文

1.1　編集・印刷の便宜上400字詰の原稿用紙を使う．

1.2　図表用のスペースを本文にあけておかない．

1.3　数式は2行取りに書き，数式の文書・記号をはっきりと説明する．

1.4　誤まりやすい英字・ギリシヤ文字・ベクトル記号にはフリガナを付け，大文字・小文字の別を示す．添え字は判別出来るようはっきり書く．

1.5　暦年には原則として西暦を用いる．

1.9　人名の敬称は原則として省略する．

9. 表題・アブストラクト・はしがき

2.1　表題は具体的に内容をよく伝えるものであること．

2.2　英文の目的・仮定・方法・結論等を明確に書き，次の諸点と留意する．㋑表題をそのまま使って第1行を書き始めない．㋺図・表・式・文献の番号を引用しない．㋩第三者の立場で書き，I や We を用いない．

2.3　はしがきには，本文の目的・方法・意義・他の研究との関連等を書く．

8. 図　表

3.1　図表の数は最小限にとどめる．

3.2　図表のそう入箇所を本文の欄外に記入する．

3.3　図表中の文字・記号等をもれなく説明する．また，必要な単位は必ず付ける．

3.4　製版後．図の修正に不可能だから注意する．

3.5　原図の大きさは印刷時の2～3倍（線拡大率）くらいがよい．図に記入される英字・数字は印刷時の大きさが1mm，漢字の場合は1.5mm以下にならぬようにする．

昭和55年3月31日発行

編集兼発行人　気　象　庁
東京都千代田区大手町1丁目3番4号

印　刷　所　大東印刷工芸株式会社
東京都中央区月島4丁目6－3号